

目 次

I	千曲川流域の概観	1
II	千曲川流域の自然環境	3
1	千曲川の鳥相(細野哲夫)	3
2	千曲川・犀川・市内河川の水質状況	8
III	沖積地と遺跡	14
1	長野盆地南部の沖積地概観	14
2	千曲川流域の遺跡概観(笹沢浩)	19
3	自然堤防・微高地・後背湿地の遺跡	22
IV	千曲川の交通	32
1	近世の千曲川通船史	32
2	甚五左衛門の苦悩	34
3	明治時代の通船	35
4	川を渡る	37
V	千曲川の脅威	39
1	絵画にみる中世の千曲川・犀川	39
2	戊の満水	41
3	今に残る「戊の満水」の傷跡	42
4	千曲川の国役普請	43
5	輪中の村	45
6	千曲川の瀬直し	48
7	善光寺平を流れる千曲川・犀川の治水図	50
VI	千曲川流域の漁撈	52
1	原始古代の漁撈具	52
2	古い文献にみる川漁	56
3	千曲川流域の漁具と漁法	57
	展示資料目録	67
	引用・参考文献	70

例 言

1. 本書は第28回特別展「千曲川」の展示解説として作成しました。
2. 紙面の都合で展示資料の一部しか掲載できませんでした。
3. 本書の内容は陳列の順序と必ずしも一致していません。
4. 本特別展を開催するにあたり、ご指導・ご協力いただいた方々は巻末に記しました。お許しいただきたいと思います。
5. 本書作成にあたり、細野哲夫氏(日本野鳥の会長野支部長・文化女子大学附属長野高校講師)と笹沢浩氏(中野実業高等学校教頭)より、玉稿を賜りました。深く感謝申し上げます。
6. 本書の執筆・編集は大蔵満(第I章・第II章第2節)、山口明(第III章第1節・第3節・第VI章)、原田和彦(第IV章・第V章)が分担し、図版作成等は寺島和範が担当しました。

開催にあたって

千曲川は甲武信ヶ岳^{こぶし}を源として流出する県下第一の河川です。佐久盆地・上田盆地では河岸に段丘地形が形成され、長野盆地・飯山盆地では河床勾配がゆるやかになり、自然堤防の発達が見られます。この自然堤防は、古代から現在に至るまで人々の生活の舞台になりました。

こうした千曲川流域の地形を形成する上で大きな要因となったのが洪水です。洪水による浸食作用、堆積作用が現在みる千曲川流域の風景を作り出してきました。仁和4年(888)の大洪水、寛保2年(1742)の戌の満水など、これまでに長野盆地では多くの水害が傷跡を残しています。

水害は人々の生活を脅かしましたが、川の改修や堤防の普請・河川敷の割地・水屋など、生きるために多大の努力と知恵が払われました。

また川の流れは境界性が強く、千曲川の流路は郡界の境となりました。しかし、舟などを媒介として文化を伝える役目も果しました。

千曲川の自然環境や漁撈^{ぎょうらう}などの川とのかかわりの深い生活は、流域の地域文化を形成する上で大きな役割を担ってきました。

昨今の河川の汚染、水辺環境の見直し、川の修景整備など、川と水が提起する問題がいろいろと取りざたされています。川をもう一度私たちの身近な生活の中にとりもどすために、さまざまな視点から「川」について改めて考えていただき、未来への展望の機会にさせていただきたいと思います。

開催にあたり、貴重な資料の提供等、多くの方々にご指導ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

長野市立博物館長